

## 令和6年度岩手県文化遺産防災訓練 参加者アンケート結果

質問項目と各選択肢の回答割合、自由記述についてはすべての回答を掲載します。基本的に質問項目は昨年度と同様のため、令和5年度の回答割合をカッコで併記します。

1 文化遺産防災マップについてお聞きします。

(1) 本日までの利用状況に最も近いものの記号に○をつけてください。

- |                            |     |       |
|----------------------------|-----|-------|
| 1 実際にハザード情報や文化遺産の所在地を確認した。 | 41% | (44%) |
| 2 ログインし、操作法の確認程度は行った。      | 23% | (12%) |
| 3 アクセスすることがなかった。           | 36% | (44%) |

(2) 文化遺産防災マップの使用法の理解度について、最も近いものの記号に○をつけてください。

- |                 |     |       |
|-----------------|-----|-------|
| 1 よく理解できた。      |     | (33%) |
| 2 ある程度理解できた。    | 64% | (67%) |
| 3 どちらともいえない。    | 5%  |       |
| 4 分からないことの方が多い。 | 26% |       |
| 5 全く分からない。      | 5%  |       |

(3) 本日の訓練をふまえ、文化施設や文化遺産の防災上、文化遺産防災マップの有効性は認められるか、自分の考えに最も近いものの記号に○をつけてください。

- |                |     |       |
|----------------|-----|-------|
| 1 大変有効だと思う。    | 27% | (44%) |
| 2 ある程度有効だと思う。  | 68% | (56%) |
| 3 どちらともいえない。   | 5%  |       |
| 4 あまり有効でないと思う。 |     |       |
| 5 全く有効でないと思う。  |     |       |

(4) 今後の業務における文化遺産防災マップの活用可能性について、自分の考えに最も近いものの記号に○をつけてください。

- |                  |     |       |
|------------------|-----|-------|
| 1 大いに活用できると考える。  | 14% | (33%) |
| 2 ある程度活用できると考える。 | 72% | (45%) |
| 3 どちらともいえない。     | 14% | (22%) |
| 4 あまり活用できないと考える。 |     |       |
| 5 全く活用できないと考える。  |     |       |

## 1 文化遺産防災マップに関する回答状況分析

令和5年度の防災訓練は、同年度から運用を開始した岩手県版文化遺産防災マップの活用を軸として内容を構成した。

本年度の訓練は、①プログラム開発の段階にある現在において同一内容の単純な繰り返しは極力避けたい、②参加者が同時に防災マップにアクセスすると動作が著しく低下する、③能登半島において現在進行形で行われている文化財レスキュー作業で必要とされるノウハウの速やかな共有をはかりたい、といった諸点から、内容を大幅に変更し、参加者が各自で防災マップを操作する機会は、訓練に先立って行う事前準備作業において設けることとした。

結果として文化遺産防災マップの使用法に関する理解度は如実に低下することとなった。訓練の冒頭で防災マップの開発者である東北大学災害科学国際研究所 蝦名裕一准教授より防災マップの意義と現状についてご講演いただいたこともあり、活用可能性への理解は総体として向上したとも見て取れるものの、使用法に関する理解を十全なものとするためには、本訓練のプログラムの一部に操作法の説明の場面を設けるなど、積極的周知をはかる必要が認められた。

2 岩手県博物館等連絡協議会の災害時対応規定についてお聞きします。

(1) 規定の認知度について、最も近いものの記号に○をつけてください。

- |   |                           |     |       |
|---|---------------------------|-----|-------|
| 1 | おおよその内容を含め認知していた。         |     |       |
| 2 | 存在は知っていたが、内容までは把握していなかった。 | 32% | (33%) |
| 3 | 存在すること自体認知できていなかった。       | 64% | (67%) |
|   | (無回答)                     | 4%  |       |

(2) 規定の内容の理解度について最も近いものの記号に○をつけてください。

- |   |               |     |       |
|---|---------------|-----|-------|
| 1 | よく理解できた。      | 5%  | (33%) |
| 2 | ある程度理解できた。    | 64% | (22%) |
| 3 | どちらともいえない。    | 26% | (33%) |
| 4 | 分からないことの方が多い。 | 5%  | (12%) |
| 5 | 全く分からない。      |     |       |

(3) 規定されている対応の有効性について、自分の考えに最も近いものの記号に○をつけてください。

- |   |                                                  |     |       |
|---|--------------------------------------------------|-----|-------|
| 1 | 大規模災害発生時でもこの規定に従うことで十分対応可能である。                   | 5%  | (11%) |
| 2 | 部分的に改善をする、細部を詰めておくことで、大規模災害発生時でもこの規定に従って対応可能である。 | 58% | (45%) |
| 3 | 大規模災害発生時にはこの規定では対応が困難であると思われる。                   |     | (11%) |
| 4 | 現時点では有効であるかどうかわからない。                             | 32% | (33%) |
|   | (無回答)                                            | 5%  |       |

## 2 岩手県博物館等連絡協議会の災害時対応規定に関する回答状況分析

各項とも、概ね昨年度の回答傾向に重なるものであった。本訓練が準拠している県博物館等連絡協議会の有事対応マニュアルについて、内容まで事前に把握している参加者は皆無であった。いかに参加者が博連協加盟館園職員に限らないとはいえ、本項目が改善を見られるまで、粘り強く周知をはかっていく必要がある。規定の内容理解度について、「よく理解できた」という回答率が大きく低下している（連動して「ある程度理解できた」の割合が著しく増加している）所以も、マニュアル全体をなぞる形で設計した前年度の内容との相違に由来するものと考えられる。

本訓練においてどこまでフォローすべきかについては検討を要するものの、関係者がマニュアルに触れる機会を積極的に設けていく必要があることは明らかであろう。

3 本日の訓練全体についてお聞きします。

(1) 効果について、自分の考えに最も近いものの記号に○をつけてください。

- |                                 |     |       |
|---------------------------------|-----|-------|
| 1 文化遺産・文化施設の防災に大変役立つものであった。     | 64% | (67%) |
| 2 文化遺産・文化施設の防災にある程度役立つものであった。   | 36% | (33%) |
| 3 どちらともいえない。                    |     |       |
| 4 文化遺産・文化施設の防災にあまり役に立つものではなかった。 |     |       |
| 5 文化遺産・文化施設の防災に全く役に立つものではなかった。  |     |       |

(2) このような訓練の必要性について、自分の考えに最も近いものの記号に○をつけてください。

- |                        |     |       |
|------------------------|-----|-------|
| 1 毎年同様の訓練を行うべき。        | 90% | (89%) |
| 2 数年に1度程度のペースで訓練を行うべき。 | 5%  | (11%) |
| 3 定期的な訓練は不要である。        |     |       |
| 4 現時点では必要であるかどうか分からない。 |     |       |
| (無回答)                  | 5%  |       |

3 訓練全体に関する回答状況分析

効果・必要性ともに前年度と重なる傾向を示しており、否定的な回答は見受けられなかった。これは、コンテンツもさることながら、文化遺産防災をテーマとした訓練自体へのニーズを反映しているものとも見て取れる。

※以下、(3)、(4)の自由記述形式の設問については、全回答をそのまま転記する。記載いただいた内容をそのまま活字にしたものであるが、各回答中ポイントとなると思われる部分についてイエローでマークした。

(3) 日頃の業務の中で、文化遺産・文化施設防災について不安を感じていることがありましたら、自由にお書きください。

- ・一人勤務であるので多くの不安がある。避難経路、基本的な避難場所、必携すべき物品について確認したい。
- ・勤務地のいたるところにヒビが入っていたり、急傾斜地のそばであるため、有事の際文化財よりも施設が崩壊しそうです。
- ・災害時持ち出す資料の優先順位が決まっていないので館内で協議する必要があると感じています。
- ・指定文化財がどのような災害にあう可能性があるか防災マップで確認しておきたい(ふだんできていないことが不安)。
- ・人員不足もあり、すべての文化財をカバーできていない。天然記念物、名勝をどう守れば良いのか、対応が後手に回ってしまう。
- ・防災マニュアルのひな形などあれば活用しやすいと思う。
- ・教育委員会の事務職員だと文化財にふれていないので何が必要なかわかっていない。市内全部の文化財防災についてと言われても幅広過ぎてイメージわからない。あとたぶんレスキューに行っても役に立たないのでは……。運ぶとこわしそう。
- ・資料本体のほか、外付けハードディスクに保存した調査時のデータなど、被災時に持ち出すべきものが分散されており、何を優先的に救出するかが共有できていない。
- ・武家屋敷など施設そのものが指定文化財のため、また収納スペース不足からスムーズに資料を避難させられない。甲冑など重量があるものをどうするか。不安だらけです。
- ・会計年度職員なので毎日わからないことばかりですが、管轄課も精一杯なのかなあお思っています。
- ・災害に特化した対応マニュアルが作られていないため、もし実際に災害が起こった時に自分が何をすべきかがあいまいなこと。
- ・被災した際に訓練通りに搬出可能なのかどうか。
- ・館外にも収蔵している建物があるが、無人で公開もされていないので災害時の対応を検討しなければならない。
- ・市教育委員会の所属になるので初動の際は人>資料になりそうところ。
- ・文化遺産に特化した防災はあまりちゃんとできていないのでいざという時に動けるのか不安を感じる。

(4) 本日の訓練に参加してみたの感想や、今後の訓練のあり方に対する要望などがございましたらご自由にお書きください。

・緊急時など時間やリソースに制限がある中で自分の役割を整理し実行するのが難しいのだと感じました。訓練を経て、指揮する方を全面的に信頼し自分の役割を全うすることが大切と考えました。

・なぜ自由参加なのか疑問。当然全施設で共有すべき情報であるし、これに基づいた訓練を施設ごとに定期的に行うべきだと考える。

・大変有意義な内容でした。ありがとうございました。部分的に盛岡の土地勘がないと分かりにくいのではと感じるところがありました。

・災害の種類によって対応が変わると思うので、訓練の際はどういう想定か事前にわかるとよい。文化財の種類によってどういうレスキューが必要か違う可能性がある。初動や時間が経ってからのレスキューで類型化できるものであればやった方がよい。

・防災面の対応マニュアル化を検討しています。

・実際には人的支援が第1となると思うので、被災してから数日経ってからの状況を想定しないと、と思いました。日頃から優先して救助するリストの作成、人員配置の想定、予備物品（梱包材）の準備をする必要があると感じました。

・博連協に教育委員会は入っていないので活動内容を知らなかった。埋文関係の施設や博物館でないけれど資料を持っている施設、市役所の観光部局所管の施設とか協力要請が来てること知らないでいるので協力しないでいる所もあるのでは。

・実際の動き方などについて訓練ができたので大変有意義でした。

・消防訓練しか経験がなかったが、防災マニュアル、防災訓練も館内で話し合い、毎年訓練しなければと思いました。防災マニュアルもない中での今回の訓練は想像以上にシステムティックで高度でした。

・すばらしい内容だったと思います。考え方、分からない点については教えていただくなど大変参考になりました。能登の経験も教えていただきよい機会をちょうだいしました。私たち下っ端ではなく（それも必要ですが）課長クラスが研修に来て、訓練、マニュアルの作成をしなければならぬと思いました。県教委が調査することも必要だと思います。このことについてはもっと強く対応してよいと思いました。

・このような機会がなければ防災について具体的に考えることがなかったと思うのでとてもよい機会でした。自館の職員の皆さんとも有事の際の対応について話す機会をもてればよいと思います。

・何がおこなわれるかよくわからず参加しました（すみません・・・）が、やってみて色々気づかされることができました。ありがとうございました。

・想定訓練ははじめてだったので現地に行って確認できたのがとても良かった。

・ベテラン職員も参加すると良い？改めて所属先のマニュアル等を確認して改善できるところがあると感じた。ワークシートを事前にいただけると良かった。

・災害はいつでもどこでも起こり得るものなので日本全地域で訓練をやってほしい。

・博連協（県）など、多くの施設、自治体関係者が集まる場所での訓練が必要に思えた。

<小括>

主催者側としては、各参加者にこうした防災訓練の必要性を強く認識していただけたことが何より大きな成果であった。講師を務めていただいた蝦名裕一先生の研究グループのメンバーや文化財防災センター職員の方、報道機関など多くの方が関心を持って視察者として参加して下さっていることも、参加者の意識高揚を後押ししているものと思われる。

文化遺産防災マップの操作法、岩手県博物館等連絡協議会有事対応マニュアルの周知徹底については、継続的に取り組むべき課題とする必要がある。但し、年一回行われる訓練で取扱い可能な内容には限界があるため、博物館等連絡協議会の行事など、他の機会の積極的な活用をはかることも視野に入れていきたい。

次年度に向けた具体的改善方策として、①スマートフォンでアクセスした際の防災マップの使用法のマニュアルを整備すること、②岩手県文化財保存活用大綱における文化財防災に関する記述内容と岩手県博物館等連絡協議会の有事対応マニュアルとのすり合わせをはかること、の2点を急務としたい。